

**質問** 竹林公園の整備事業について、こどもの居場所となるパーゴラを設置することだがパーゴラとは何か。また、公園の中が暗いとの声があるが、照明など検討は。

**答弁** パーゴラとは、ベンチや野外卓などの施設の上部に設置する日陰棚のことである。5年度に実施したワークショップでの意見等を踏まえ、7年度に公園灯を1基増設する予定。

**質問** デジタルマップ等アプリの構築に関し、「るるめナビ」の提供が始まったが、7年度のアプリの開発予定と、利用者の声を聞くためにどのような取り組みを行っていくのか伺う。

**答弁** 7年度においては、防災マップや熱中症予防情報などの情報をアプリに追加するための開発を行う。また、利用者に年に1回アンケートを行い、健康に関する理解やアプリの活用状況などについて伺うことを予定している。

**質問** 向山第2緑地への防球ネット整備について、工事内容とスケジュールを伺う。

**答弁** 高さ5メートル、面積として約110平方メートルの範囲に防球ネットの整備を予定しており、令和7年8月から9月頃までを工期とし、予算の議決後に速やかに対応していきたい。

**質問** 東村山都市計画道路3・4・13号線及び3・4・21号線の整備について、第2工区（小山・本町区間）の進捗状況について伺う。

**答弁** 令和2年8月に事業認可を取得した第2工区は、6年度、物件調査を2件実施しており、2月末時点で全体の約7割の物件補償調査を終えている。事業用地については、6年度に5件の土地確保の契約などを行っており、全体の約3割、約3532平方メートルを確保している。

**質問** 市道207号線整備事業について。笠松坂を通る歩行者の安全を確保するのはいつなのか。

**答弁** 市が土地の所有権を有しているわけではなく、土地収用の手続を進めている段階。市が権利取得した後、現地整備にはその後の土地収用制度の土地明け渡しの手続きも含め一定期間を要することから、これらに先立ち、まずは、歩行者などが安全に通行できるよう仮舗装を行い、暫定開放したいと考えている。引き続き、8年度には整備工事に着手できるよう取り組みを進めていく。

**令和7年度予算の主な継続・拡充事業**

事業名	予算額
近未来型市役所実現に向けた基本計画策定等	6,864万6千円
向山緑地公園整備工事	5,500万円
竹林公園整備工事	4,450万円
市道207号線整備事業	1億807万1千円
東村山都市計画道路3・4・13号線及び3・4・21号線整備事業	8億7,650万3千円
認知症の普及啓発・検診事業	1,244万7千円
デジタルマップ等アプリの構築	990万8千円
小山小学校増改築工事	11億4,800万4千円
中学校給食へのあたたかい献立の導入	2億6,772万2千円
第三次環境基本計画・地球温暖化対策実行計画（区域施策編）策定	448万8千円
市民課窓口関連業務委託	3,155万2千円
個人番号カード関連業務委託	6,248万3千円

**限りある予算で最大の効果を求める**

富田市長の任期最終年度の予算となる。市長が掲げた「あんしんして暮らせるまち」に向けて、市政運営の柱の3つの重点取り組みである「未来志向の公共施設マネジメント」「一人にや

**市議会立憲民主**

**深刻な財政・人材難も将来見据え骨太の取組を**

市長が目指す「あんしんして暮らせるまち」に向け、政策の柱となる3つの重点事項を堅実に取り組んできたことを評価する。公共施設マネジメントでは、特に今後は公共施設の

**東久留米維新の会**

**「あんしんして暮らせるまち」に向けて**

令和7年度は、これまでにない非常に厳しい予算編成だったと推察する。財政調整基金の残高見込みは、8年度以降の予算編成を考えると、少し心もとなく、新規事業への大きな足かせ

**国民民主党**

**他市に劣らない子育て環境を維持してほしい**

令和7年度の予算編成は、厳しい財政状況の中、教育費に係る予算も多く、こどもの学びの環境を改善することに力を注いだものと考えられる。学校給食費の無償化、学校のタブレット端末も今

施策は、市民生活の向上と社会を取り巻く厳しい将来予測に対応していく上でも大変重要となる。生産年齢人口の大幅な減少が差し迫る中、基礎自治体としての行政サービスを根本的に見直し、持続可能な公共施設の規模や業務内容の検討が必要である。富田市長の下、

自治体DXに関しても、7年度は市役所窓口のICT化等も検討・実施される予定である。将来世代まで「あんしんして暮らせる市」の未来を見据え、今後も3つの重点事項を一步一步着実に進めることが今こそ重要と考え、本予算案がその新たな一歩となることを願いつつ、賛成する。

となることも予想され、さらなる行財政改革に取り組まなければならない。その様な中で、市長が掲げる「あんしんして暮らせるまち」に向けた取り組みをバランスよく予算化している。「未来志向の公共施設マネジメント」の関連予算、市役所窓口キャッシュレス決済機能導入等の「一人にやさしいデジタル化」の推進

後順次新しくなり、不登校対策のチャレンジクラスのスタート、児童館におけるこどもと大人を対象にした相談窓口の開設準備、学校タブレット端末を通じたこどもたちの意見表明ができるような検討がなされた。子育てやこどもの学びの環境の向上の背景には、市のDXの推進があることも重要な点。長年停滞し、半ば諦めていた学びや子育ての環境が、デジタルの推進により飛躍的に改善される。市の財政面での厳しさは今後も変わらず続くこと予想され、学びや子育ての環境の質を保持しつつ今後の財政運営をお願いし、一般会計予算案に賛成する。

3特別会計予算案および下水道事業会計予算案は、意見を付すことなく賛成。